

カンファレンス・事例検討ワークシート

1. モヤモヤした感覚、疑問などの気づき

患者とのかかわりの中や仕事のあらゆる場面で、「えっ!?!」「おやっ!?!」「なんで!?!」「なんかおかしい……」「しっくりしないな」「〇〇さんにもっとこうなってほしい」など、あなたが感じた“モヤモヤ”や疑問、思いをそのまま書きましょう。

2. ケースの概観

患者の性別や年齢、病名、治療や看護の展開内容、生活状況や発症の経過、家族背景など「この患者さんはこんな人」がわかるような情報を書きましょう。

3. 場面の再構成

モヤモヤや疑問、思いを抱いた場面を思い起こし、第三者にもその場面がありありと把握できるように、その場面の具体的内容を書きましょう。患者の具体的な態度や言動などのS、O情報やあなたのかかわりの内容などを詳しく。

☒ 場面の再構成

4. キーワードの抽出 (概念化)

1.~3.で記述した内容をもう一度見返しましょう。その中から、あるいは思いつきから、このケースを分析していくうえで大切だと思われるキーワードを抜き出します。

☒ Key words

例：糖尿病、療養生活、保健行動、意欲低下、看護、患者教育

5. イシュー形成

私たちがこの機会を通じてどのような目的を達成したいのかを具体的に書きます。「あるべき姿」や「看護目標」も記述しておきましょう。

📌 イシュー

例：糖尿病の療養指導に対して患者が前向きになれない理由 (Why?) を明らかにし、その理由に合ったかかわり方 (How?) を見つけ出すことで、治療に対するアドヒアランス向上をめざす

6. 問題の時間的スパン，視野の広さ，レベル感の確認

取り組む問題の範囲を確認しましょう。

問題をとらえるときの問い

1. 静的なもののみならずともよい問題かどうか
2. 時間によって変化していく問題かどうか
3. ある問題が2次的な原因となって引き起こされている問題かどうか
4. 悪循環に陥っている問題かどうか
5. ある対象の問題と思いきや、実はチームや組織の問題ではないか
6. 対象の問題であると思いきや、実は私たち自身の個人的な知識の不足や技術の未熟さという問題ではないか
7. 私たち自身の個人的な知識不足や未熟な技術の問題と思いきや、実は私たち自身の感情や欲求や意欲といった心理状態に深く結びついている問題ではないか
8. 対象の問題であると思いきや、実は私たち自身の感情や欲求や意欲といった心理状態に深く結びついている問題ではないか

7. フレームワーク選び

4.と5.の内容から、目的を達成するための、ふさわしいフレームワークの候補をINDEXから選びます。「これだ!」と思えるものとは別に、いくつかほかの選択肢(オプションoptions)もあげておきましょう。

たとえば、患者が抑うつと不安になっているとき、その感情について、現在にだけ焦点を当てて理解するか、長い過程の一段階として理解するか、それによってフレームワークの選択肢は異なってきます。前者であれば、15認知のABCモデルや16抑うつ気分をつくる認知の歪みなどが、後者であれば、22心理的回復過程や23慢性疾患と障害への適応段階などが、それぞれ選択肢としてあがります。こんなときは、前者、後者どちらも選択肢にあげておくといでしょう。

8. フレームワークの適合度のチェック

選んだフレームワークが、あなたが解決したい問題に適合しているかどうかは、すでにもっている情報をフレームワークにざっくり当てはめてみることで確認します。フレームワークを書き出して、そこに情報を書き込んでいく作業です。「なんか、違う」と感じたら、ほかのフレームワークに移ります。

☒ フレームワークを描き、情報を書き込もう

9. フレームワークによる分析

フレームワークの構成要素に基づいて、すでにもっている情報を分別したり、新たに必要になった情報を収集したりして、フレームワークの構成要素を完成させます。

「8.フレームワークの適合度のチェック」のワークシートをそのまま使います。

10. イシューに対する答えを述べる

フレームワークの構成要素を完成させたら、全体を見渡し、そこから言えることを述べます。Why? (なぜ、その問題が起きたのか?) に対する答え、What's next? (次に何が起きるのか?) に対する答え、How? (どうすればいいか?) に対する答え、です。

☒ Why? に対する答え

☒ What's next? に対する答え

☒ How? に対する答え